

効果報告レポート

【事業者名】

コトバンク株式会社

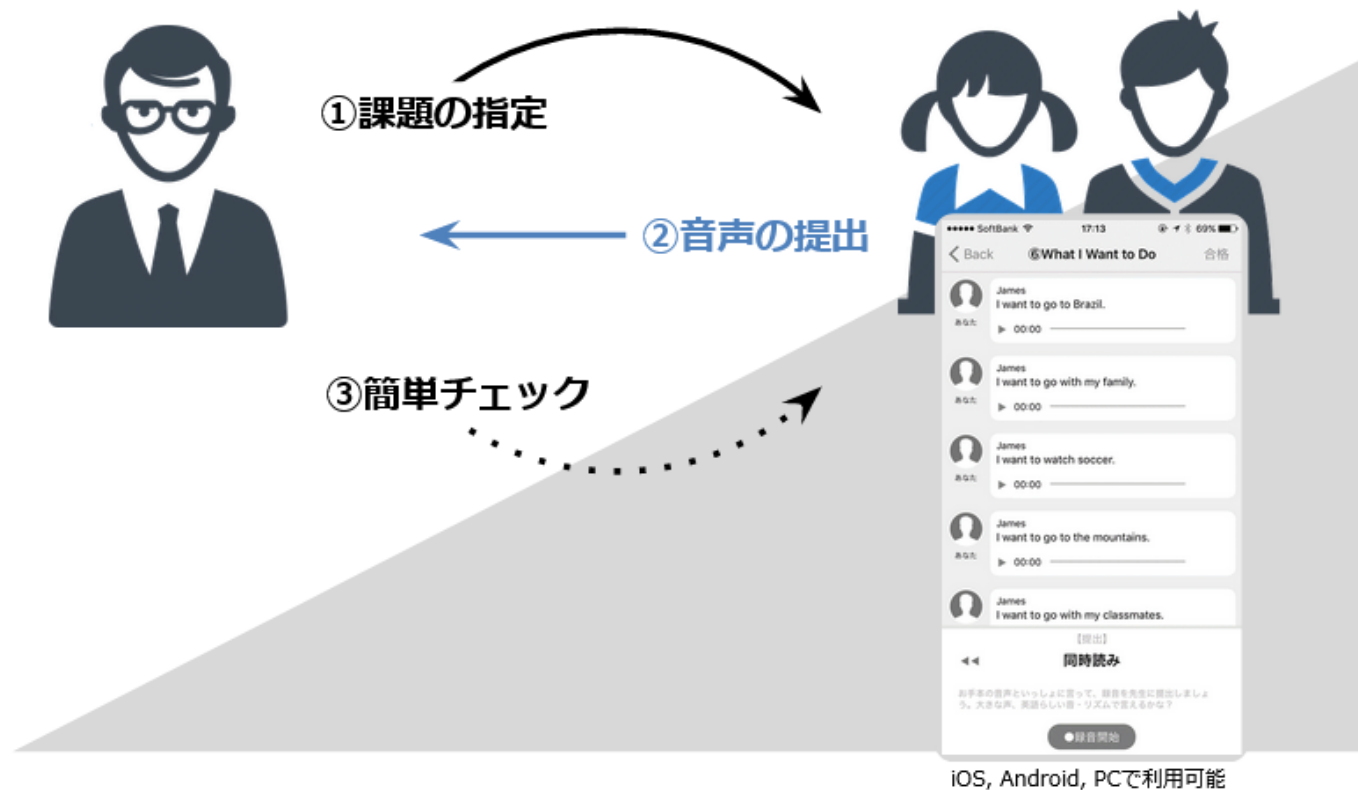
【ツール名】

音読指導アプリ「RepeaTalk」

【ツールの機能分類】

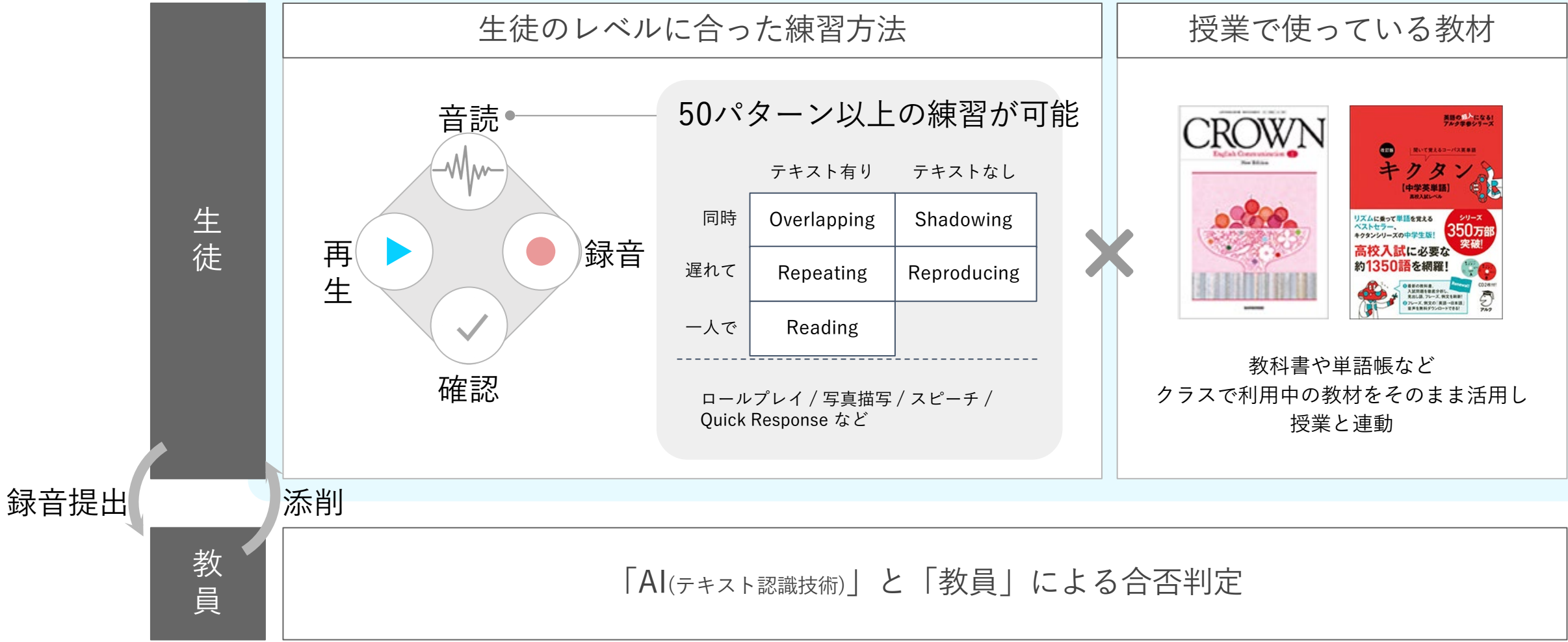
オンライン語学学習

2022年2月



RepeaTalkは「練習方法」と「教材」を自由に組み合わせて音読練習ができるアプリです。

「練習方法」と「教材」を自由に組み合わせる機能で特許取得



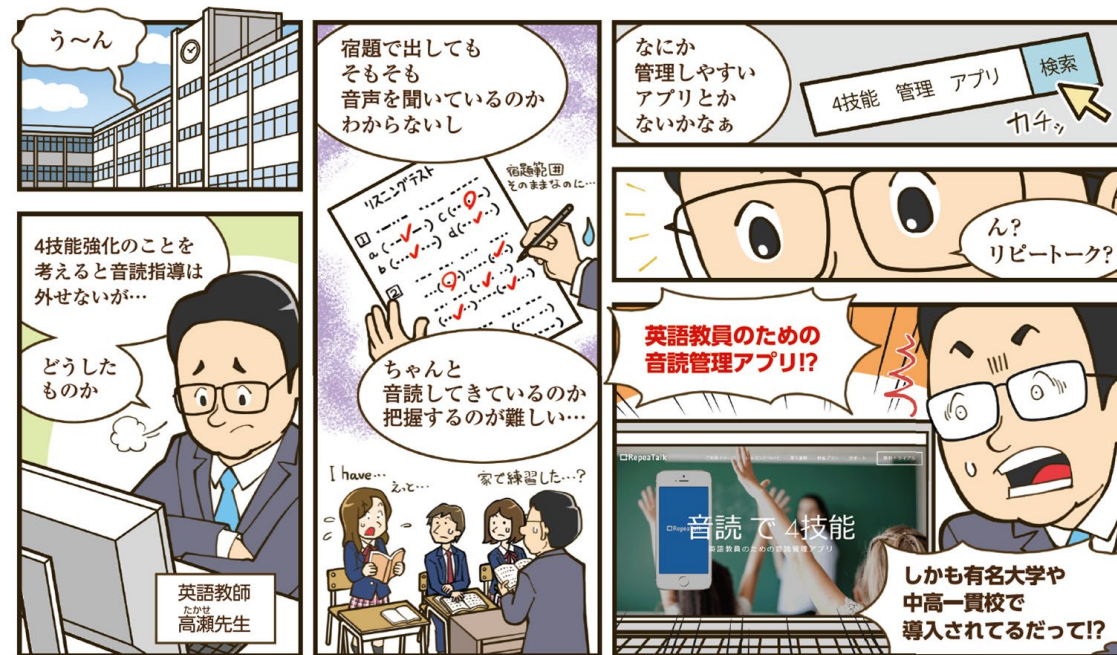
93% 音読課題 取り組み率 “やらない9割”がアクティブに

十文字中学校・高等学校 高瀬聡伸先生インタビュー

導入の結果、十文字学園では90%の生徒が家庭で英語にふれるようになりました。30%の生徒が、授業の進度にあわせて音声を提出しています。60%が締切前にまとめて出す生徒です。今までは上位10%がCDを聞いていればよいという感じでしたが、リピートでその割合が逆転しました。ICTツールには活用のコツが2つあると思います。1つは、授業及び評価と連動させること。2つは、教員に負担をかけさせないこと。

まず1点目ですが、リピートは、授業で使用している教材がそのまま使えるため「アプリで音読→定期テストの得点UP」という構造が作りやすく、練習を継続させやすいです。同時に、教員にとっては余計な教材を増やさなくてよい点が魅力です。

▼マンガ化された高瀬先生のストーリー



2点目は、教員にとっての生命線です。生徒に音読はさせたいですが、数百もの録音音声を1つ1つ聞いてフィードバックすることは不可能です。しかしリピートクのAI採点機能を使えば、教員は自動で負担なくフィードバックが行えます。また、生徒の状況にあわせて手動でコメントしてあげることも、自由にできます。私の場合は、日常的に音声を提出する30%の生徒にはなるべく丁寧にコメントを返してあげる一方、締切前に駆け込みで提出された音声についてはAIで一括採点しています。

ICTの導入で、教師は授業外でも生徒の学習活動が容易にチェックできる時代になりました。別の見方をすれば、教師の負担は確実に増えていきます。生徒も教師も気負いすぎず、無理のないペースで取り組めるのがいいですね。

■ 学校等教育機関の抱える課題

英語の4技能習得が重要視されており、その有効な手段の1つとして音読練習が存在する

コロナ対応により、音読練習を授業時間内で行うのが困難になった

*音読練習とは、音声を聞く、文章を読む、発音するを組み合わせた英語の練習方法を指します。具体的な練習パターンは複数存在します。

課題

授業外での音読練習の量を
先生が正確に把握することが
困難

練習方法の指定や個別フィードバック等
授業外での音読練習の質を先
生が管理することが困難

指導効率の観点から
個別フィードバックを授業内
ですることが困難

教員向け音読指導アプリ「RepeaTalk」：先生が生徒に音読練習の課題を課し、それを管理しやすくするアプリを導入する

解決への 仮説

授業外の音読練習の量と質を管理することが可能となる

個別フィードバックを授業時
間外で行えるようになる

期待される 変化

授業外の音読練習の量的変化
・音読時間が把握可能に
・音読練習時間が変化

授業外の音読練習の質的变化
・練習方法が把握可能に
・音読練習方法が変化

個別フィードバックの変化
・個別フィードバックの実施
頻度が変化

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

全国16校32クラスにおいて、各クラスに最適化された音読課題（練習方法×教材）をRepeaTalkに設定した授業外で生徒が課題を実施し、教員が評価をした

授業内

教室で教科書を用いて英語教員が指導を行う

本事業では32クラスに導入し、36種類のテキストが利用されていた

※RepeaTalk導入クラスの担当教員にヒアリングをし、ニーズに基づき、テキストに準拠した音読課題を設定した

※授業外で活用するオンライン学習ツールのため、授業風景はございません

授業外

教員が設定した音読練習課題を生徒が授業外で実施

生徒が提出した音読練習課題に対して教員が個別フィードバックを授業外で実施

①聞く

指定課題を聞く

②録音する

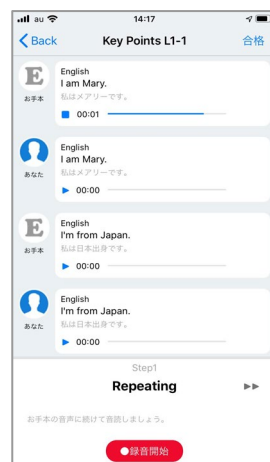
「あなた」の箇所を話す
録音を提出

④振り返る

添削結果を確認・再学習

③評価

録音を聞き、個別添削する



教員添削画面・非公開のためぼかしております

■ 補助事業において実施したサポート内容

サポート体制

弊社スタッフ12名が
先生が考える理想的な練習環境実現をサポート

サポートフォーム・WEB会議システムを活用してサ
ポートします

サポート内容

①授業で利用するテキストに沿った、教員が理想と考える音読練習の課題を設定するサポート

- ・音声、テキスト、画像の加工作業サポート
- ・練習パターンをRepeaTalk上で登録するサポート
- ・個別添削支援を行うAIの設定サポート

②ID発行、マニュアルの配布のサポート

③教員・生徒への使い方の案内

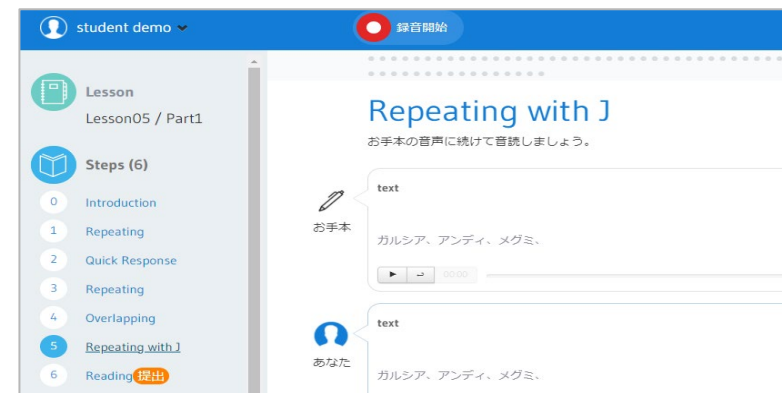
④導入後、ヘルプデスクを通じて操作サポート

※通常サービスの一環

新型コロナウイルス感染症の影響を最大限考慮し、自治体・学校へのサポート対応等を原則オンラインを利用した方法で行ったため、画像はございません

参考：同じテキストを使っている、ニーズにあわせた異なる練習方法（ステップ）を設定します
以下2校は同じ教科書を利用するも、練習パターンが異なります

A校



B校



■ EdTech導入補助金2021における導入実績

EdTech導入補助金を用いて、16校に導入いただき、4793名の生徒様にご利用いただきました

学校	学年	導入科目名
岩田高等学校	高1	コミュニケーション英語Ⅰ
	高2	コミュニケーション英語Ⅱ
	高3	コミュニケーション英語Ⅲ
高田商業高等学校	高1	英語Ⅰ
	高2	英語Ⅱ
	高3	英語Ⅲ
学習院高等科	高1	英語Ⅰ
	高3	英語Ⅲ
白陵中学校	中1	J1
	中2	J2
	中3	J3
自由ヶ丘高等学校	高1	C英語Ⅰ
	高2	C英語Ⅱ
日本女子体育大学附属二階堂高等学校	高1	英語Ⅰ
	高2	英語Ⅱ
	高3	英語Ⅲ
四條畷学園高等学校	高1	英語Ⅰ

学校	学年	導入科目名
明法高等学校	高1	英語Ⅰ
	高2	英語Ⅱ
立教新座中学校	中2	英語Ⅱ
城西川越中学校	中1	英語Ⅰ
森村学園中等部	中2	英語
	中3	英語
森村学園高等部	高1	英文法
北陸学院高等学校	高3	英語Ⅲ
帝塚山高等学校	高1	英語Ⅰ
樟南第二高等学校	高1	コミュニケーション英語Ⅰ
	高2	コミュニケーション英語Ⅱ
	高3	コミュニケーション英語Ⅲ
宝塚西高等学校	高1	コミュニケーション英語Ⅰ
	高2	コミュニケーション英語Ⅱ
	高3	コミュニケーション英語Ⅲ

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

検証項目

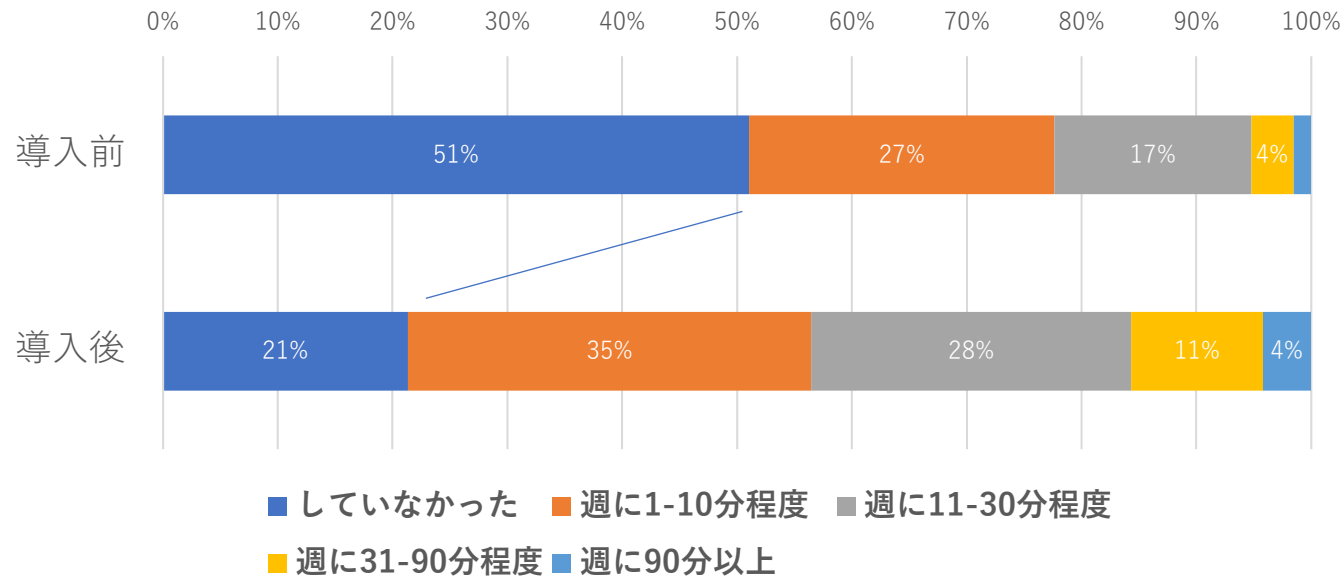
授業外の音読練習の量的変化

検証結果

導入先で音読練習時間が増加

- ・ 授業外で音読練習をしていなかった生徒が半分以上減った
- ・ 25%の生徒に授業外の音読練習時間の増加がみられた

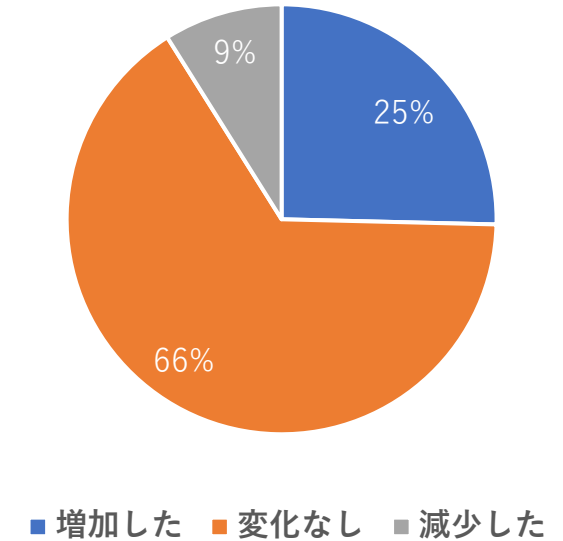
RepeaTalk導入前/導入後の
授業外で英語の音読練習時間



対象：本事業の導入校生徒1167名

設問：RepeaTalk導入前/導入後は、授業外で英語の音読練習（スピーキング練習）をしていましたか？していた場合は、何分程度していたかを教えてください。

RepeaTalk導入前/導入後の
授業外で英語の音読練習時間



算出方法：左記設問への回答から算出

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

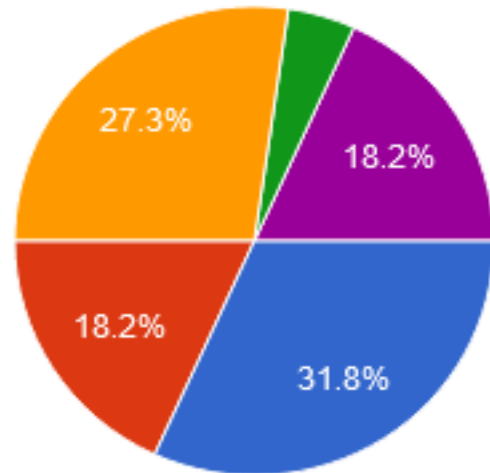
検証項目

授業外の音読練習の質的变化

検証結果

- ニーズにあった音読練習が実施され、教員がその状況を把握できている状況に変化
- ・ 77.3%が授業外の練習状況把握できていない状態から、状況を把握しフィードバックできる状態に変化
 - ・ 全クラスにて個別化された課題が展開。教員から適切であると評価された。

RepeaTalk導入前、授業外で英語のリスニング・スピーキング練習状況把握



- 練習を指示をしていなかった
- 全く把握はできていなかった
- あまり把握できていなかった
- ある程度把握できていた
- 完全に把握できていた

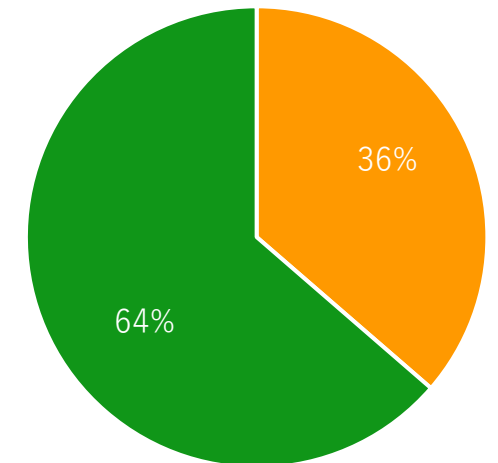
対象：本事業の導入校教員22名

設問：RepeaTalk導入前、授業外で英語のリスニングまたはスピーキング練習状況を把握できていたと思いますか？

▶ 全教員が生徒に対して個別フィードバックを実施

▶ 全クラスで教員ヒアリングに基づいて個別化された課題を展開

RepeaTalkに登録した課題の評価



適切でない ●1 ●2 ●3 ●4 適切である

対象：本事業の導入校教員22名

設問：RepeaTalkに登録した練習方法を評価してください

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

検証項目

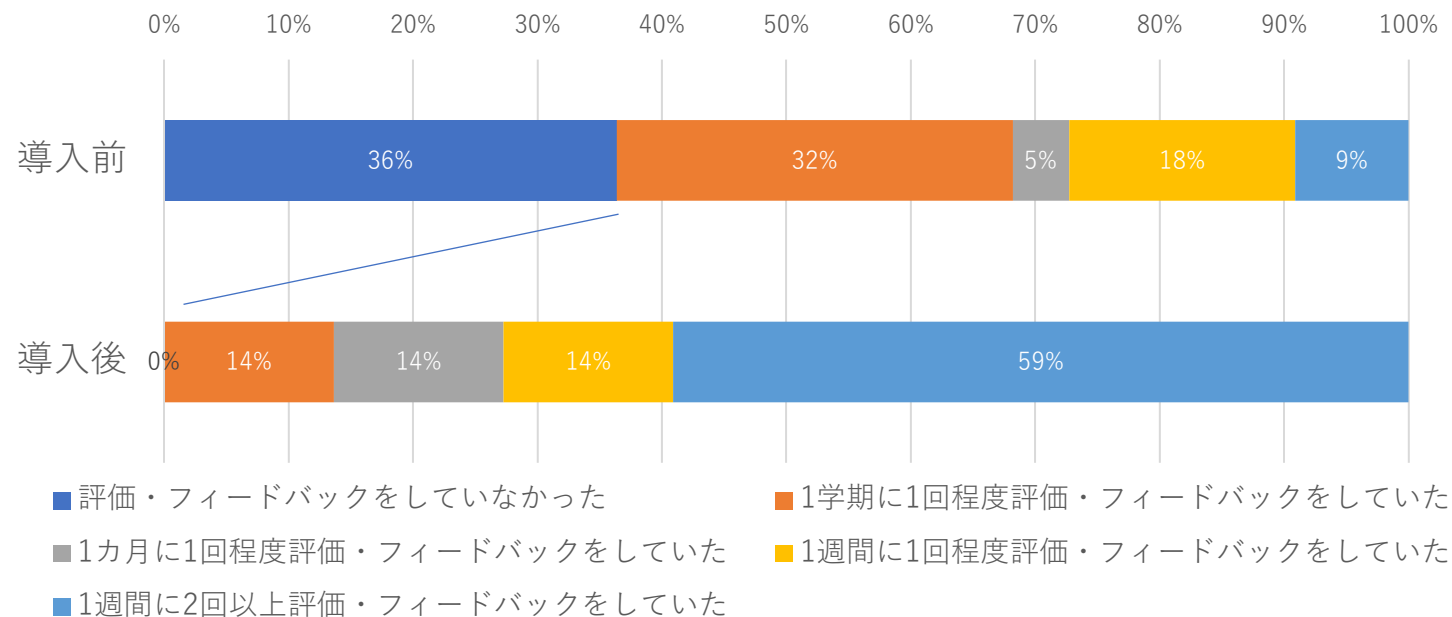
個別フィードバック方法に対する変化

検証結果

個別フィードバック頻度が増加

- ・ 個別フィードバックを行っていない教員が35%から0%に変化
- ・ 導入期間約6カ月で平均12回個別フィードバックが行われていた

RepeaTalk導入前/導入後の
生徒のスピーキング能力に対する個別評価の変化



対象：本事業の導入校教員22名

設問：RepeaTalk導入前/導入後は、生徒のスピーキング能力に対する個別評価・フィードバックはしていましたか？

生徒1人あたり導入期間
平均個別フィードバック回数

12回

評価数Top5校

A校	43.3
B校	24.2
C校	22
D校	13.2
E校	6.6

算出方法：RepeaTalk上の個別評価回数。
2021年8月から2022年1月を累計。

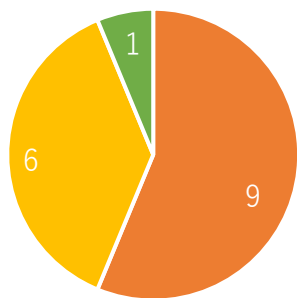
教員のコメント

コメント①

熱心な生徒は、「こうやって音読練習すればいいのか」というのが体感できたよう。音読をやるようになったら音読には確かに効果があることを感じられた、音読の大切さがわかった生徒がいた。

コメント②

生徒のモチベとして、今までよりさらに提出しなきゃいけないという環境になった。成果が数値化して出てくるのはPC（アプリやツールがないと）がないとできないのでそこは導入して良かったと思う。



導入した16校において
ほぼすべて（1校除く）で
次年度の継続利用について
前向きに検討中

■ 継続意向 ■ 検討中 ■ 継続しない

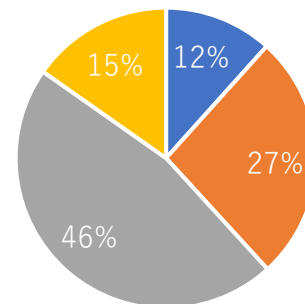
生徒のコメント

・スピーキングは自分はあまり普段からやっていなかったのですがこのアプリによって前よりはやる習慣ができたと思います。ありがとうございました

・UIが変更されて驚くほど使いやすく、見やすくなりました。ありがとうございます

・RepeaTalkをすることで英語の良い発音が身につき、試験でlisteningの点数が上がったように思います。ありがとうございます。

・お手本のあとに音読する制限時間が短いため、追いつけない



61%の生徒がRepeaTalkの学習効果
をどの程度実感できたと回答した

実感できない ■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 実感できる

対象：本事業の導入校生徒1167名

設問：RepeaTalkの学習効果をどの程度実感できたかを教えて下さい

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

「教育に、最高の道具を」を具現化するべく、本事業での学びも反映し、改善を図っていきます

RepeaTalkの 課題と解決策

課題①

使い始めたころ、通常の添削と「まとめて添削」の違いと、判定ルール設定をどれくらいのハードルの設定をしたらいいのかわからなくて難しかった

課題②

より個別化した学習ニーズに対する対応リクエスト
・音声の再生スピードの可変
・コメントの種類

課題③

価格（年間契約で月額600円/生徒・税別）が高く、自己負担ができない

解決策①

利用開始時に開催するオンボーディング用WEB会議に加え、利用状況に合わせたスタッフによる能動的なサポートを標準化した。
※ただし、サポートのタイミングが十分でない状況がまだ存在し、体制整備で改善を図る

解決策②

機能の拡充を図っていく

解決策③

利用者の多いテキストを中心に、カスタマイズのサポートを制限した低価格コースの提供を検討

EdTechの 課題と解決策

課題④

複数の出版社が、出版社のテキストのRepeaTalk上の利用を許可しないとする連絡を学校に行った
そのため、これらの出版社のテキストに連動した課題を設定できていない

解決策④

弊社として、出版社への働きかけは継続的に行う
SARTRAS制度に対する理解をセミナー等を通じてこれからも行い、適正利用を促進する
※2021年9月「映画・洋楽×ICT」この授業って大丈夫?!セミナー <https://eigokyozaainavi.com/article-list/211013-01>

■ 会社概要

会社名	コトバンク株式会社 COTOBANK INC.
所在地	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-15-12-301
代表取締役	小泉 純
設立年月	2008年8月
資本金	40,050,000円
事業内容	教育機関向けエンタープライズSaaS「RepeaTalk (リピートーク)」の企画・開発・運営、その他オンライン教育コンサルティング業務
主要取引先	株式会社アルク 教育開発出版株式会社 株式会社ベネッセコーポレーション 株式会社mpi松香フォニックス 株式会社ウィングローブ 浅野学園 他
主要株主	株式会社VOYAGE VENTURES



お問い合わせ窓口 : <https://www.repeatalk-info.net> / info@cotobank.net